東京日々新聞

七百八十一号

純粋の江戸生と稱を傲慢の一癖ハ一九が著述の膝栗毛ヨ誰々も知る。弥治喜多八が孫ゴや

あり〻ん。狐と乗せこ馬喰町ヨ住ゐ

某の二名ハ王子邊ヨ商用ゴ行て

到るの途中。路傍の厠ヨ入こ用ゆ

便し一人ヨ言ふゴ「コウ美味を

喰と糞を此麥飯糞の中ヘ打捨て

ゆくの可惜りのざナエ」

といふ折節芋畑ヨ在

農夫が二三人手ゴ〻

鍬鎌糞斗。引提來りて

声高ゴそん祝ヘヨ惜ゆ糞

ゴら持て往ッ共ヘ樂が雪隱ヘ

ゴれて置といあらねヘ」と糞斗を

差つけ責ゴ子ら色。詞を尽して謝色

ゴも頑爭聽ね百姓質氣。勢ひ強きヨ

歇し難し。ゴ子ら〻〻あゴら我が

糞と芋の葉ヨ〻〻包。路傍ヨ

捨んと思へゴも。夥多の農夫ヨ護送され。八王子の

街ヨ至る迄。臭氣を堪〻〻持歩行し。笑ふヨ

絶言新聞ゴり

轉々堂鈍々戯記

人形町 具足屋

尼田彫長

東京日々新聞781号　文庫10-8059-20
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library